

2日間で3stage。充実した競技、はじめてのスプリントリレー、日韓合同合宿など大満足の2日間だった。

2012年3月17-18日 山形県真室川町
J-cup スキーオリエンテーリング大会

1日目競技結果

ME - 4.7km

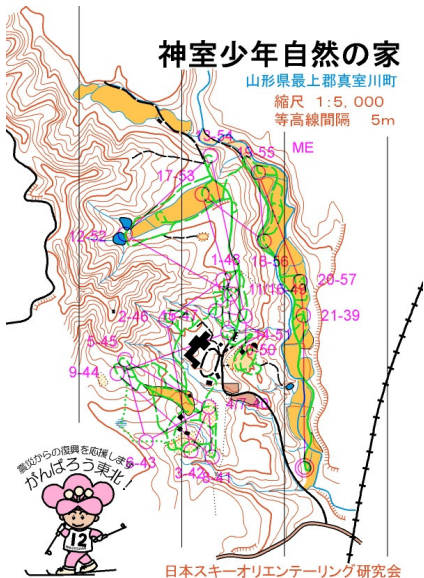
- 堀江守弘 0:42:16 arc.jp
- 黒田幹朗 0:56:58 横浜 OLC
- 平野弘幸 0:59:44 東北大学

WE - 3.4km

- 高橋美和 0:48:45 arc.jp
- 渡邊志保 1:02:36 米沢 XC スキー-C
富樫麻奈美 DISQ 真室川高校

MA - 3.4km

- 今井達弥 0:52:20 チーム知一
- 山田一善 1:02:07 多摩 OL



J-cup 1日目の地図。1:5,000の狭い範囲だが難易度はナビゲーション、滑走技術ともに高いものが要求された。

ニューテレイン登場

今回のJ-cup1日目はニューテレインで競技が行われた。山形県真室川町にある神室少年自然の家の周辺が使用された。以前にこの施設に宿泊した時、周囲に広がる雪の林を見て「ここでスキーオリエンテーリングできたら楽しそうだな」と思っていた場所である。

J-cup 主催者も同じことを考えたのだろう。ここにニューテレインを求め



競技者が揃って記念撮影。韓国選手も初めてのスキーオリエンテーリング競技会に参加した。

での開催となった。

そんな憧れの場所で実際に競技が行われたわけだが、見た目よりもはるかに厳しいテレインであった。細かいアップダウンの一つ一つの斜度がきつ、スキーで登り降りするにはかなりの技術が必要である。スノーモービルでのコース整備は大変だったことは容易に想像がつく。

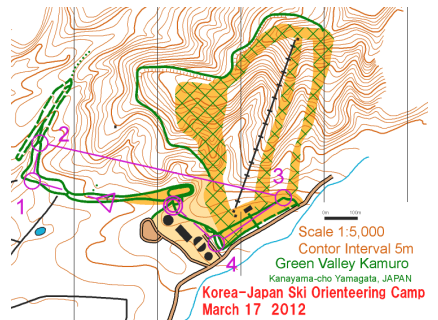
スキーオリエンテーリングのテレインはクロスカントリースキーコースを持っている場所が多い。そのコースを基本にスノーモービルを使ってコース拡張することが多いからだ。従って、テレインはリユースが基本でありニューテレインにお目にかかることは殆ど無い。そんな慣例を破って新たなテレインを作り出した運営者の情熱には拍手である。



総合成績で J-cup を手にした高橋美和 (左) と堀江守弘 (右)

初めてのスキーO

韓国選手は全員が初めてのスキーオリエンテーリングとなる。午前中に別テレインでトレーニングをしてきてルールは何とか理解した状態で競技のスタートを切ることができた。しかし初めての競技会がいきなりこの厳しいコースとなり、まずは韓国選手全員が打ちのめされた。とにかくコースの殆どがかなりの斜度があり、さらに地図も細かくて対応ができなかったようだ。決して初心者ではない筆者・木村にとっても難しいコース設定だった。

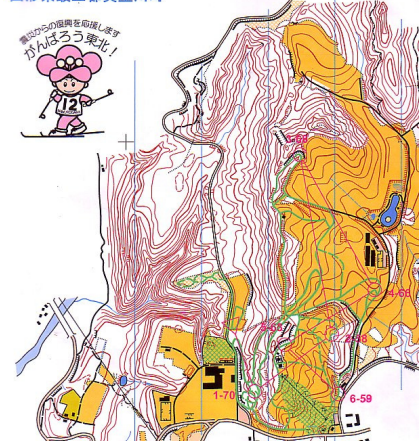


J-cupに参加する韓国選手の練習用に今回特に作成されたトレーニングマップ。(カムロススキー場クロスカントリーコース) J-cup 1日目の午前中にここでトレーニングをして韓国選手は競技に臨んだ。

秋山クロスカントリーコース

ME1,WE1,MA1

山形県最上郡真室川町



J-cup 2日目の地図。圧雪された広いピスト道をピュンピュン滑りまわる高速レース。

高速トレイン

2日目のトレインはJ-cupではおなじみの秋山牧場のトレインである。ここは山形県随一のクロカンコースである。つい1か月前には全日本クロスカントリースキー大会もここ秋山牧場で開催されている。

そんなトレインで行う2日目のレースは1日目とは打って変わって、高速な巡航速度を要求されるコースであった。細かな地図読みよりも、瞬時のルートチョイスが勝負を分けるようなレグもいくつか設定された。こうした高速トレインでは韓国選手は息を吹き返したかのように暴れ回った。

J-cup 総合表彰は2日間の合計で競われる。男子はダントツの成績で堀江。来週の全日本スキーオリエンテーリング大会に向けて揺るぎない実力を見せつけた。2位に入ったのは今年からスキーオリエンテーリングに参戦した東北大学の平野。平野は1週間前に行われたフット0のインカレミドル選手権クラスでも銅メダルを獲得している。3位は安定した成績が活きた柴田。2週間前の小千谷大会で優勝した黒田は2日目のミスで大きく沈み、J-cupのメダルに手が届かなかった。

女子は2日間安定した成績を残した高橋美和が優勝した。

2日目競技結果

ME			
1	堀江守弘	0:38:18	arc.jp
2	平野弘幸	0:51:52	東北大学
3	宗形竜憲	0:52:47	二本松 OLC
WE			
1	島貫なつみ	0:40:39	九里学園高校
2	高橋美和	0:43:57	arc.jp
3	渡邊志保	0:45:12	米沢 XC
MA			
1	今井達弥	0:39:37	チーム知一
2	山田一善	0:49:13	多摩 OL

楽しいぞ！スプリントリレー

最後にスプリントリレーというお楽しみ競技が行われた。2人で1チームを組み1人が3回滑るリレー競技である。1人が1回に滑る競技時間は約3分。トレインは雪の積もった野球場の中だけで行われた。まさにスタジアムオリエンテーリング。

使用された地図の縮尺は1:1,000。野球場内にはタッチフリーコントロールが多数設置されており、これを選手は滑りぬけてゆく。しかもスタートはマススタートで行われる。競技中の様子をすべて観戦することができる。もちろん応援もヤジも飛んでくる。雰囲気はクロスカントリースキーのスプリント競技のようだ。



チェンジオーバーを受ける堀江守弘と地元の女子高校生・富樫（真室川高校スキー部）

午前中に行われたJ-cup2日目の結果を参考に、チーム同志が競い合えるように選手同志で話し合っ即席チームを組んだ。このため日韓混成チーム、堀江と地元女子高校生チーム、女子高校生だけのチームなどなど話題性ある多彩なチームができあがり、楽しく真剣に競い合った。

優勝は黒田・柴田という貫禄のベテランがゲットしてしまって、周囲のブーイングを買っていた。2位、3位チームは日韓合同チームが入り、韓国選手のモチベーションもこれで一気に上がったようだった。



スプリントリレーのマススタート。スキーでは滑走に幅を使うことから、一度に多くはスタートできない。



グラウンドの中だけで組まれたコース。雪の多かった今年はグラウンド内に人口の雪山ができていた。まさに人工的に作られたトレインだ。

電子式タッチフリーコントロールが採用され競技はスピーディな展開となった。写真は善戦する韓国のピョンと渡邊志保。ともに高校生。



スプリントリレーのウイニングランを飾る柴田・黒田チーム

(木村佳司)